

2X RAS 導入マニュアル

2015年 7月

目次

| | | |
|----|--------------------------|----|
| 1. | はじめに | |
| 2. | 2X RAS のインストール | 3 |
| 3. | 2X Secure Client Gateway | 11 |
| 4. | アプリケーションの公開設定 | 12 |
| 5. | ロードバランスの設定 | 16 |

1. はじめに

2X RAS のシステム要件

- このマニュアルは 2X RAS v14.1 の導入をベースに記載しています。
- 本書は Microsoft Windows Server2012 R2 をベースに記載しています。
- リモートデスクトップサービスが稼働している Microsoft Windows Server 2008 R2/2012 R2 が必要となります。
- マイクロソフト規定のハードウェア要件が必要となります。

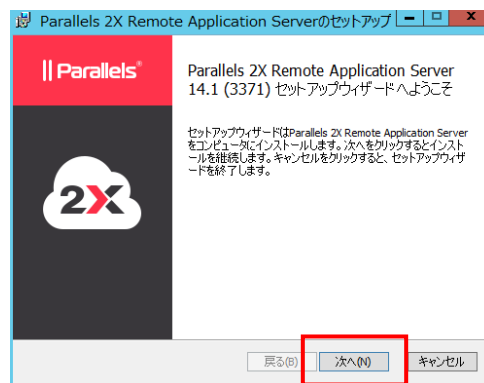
2. 2X RAS のインストール

2-1. 2X RAS のインストール

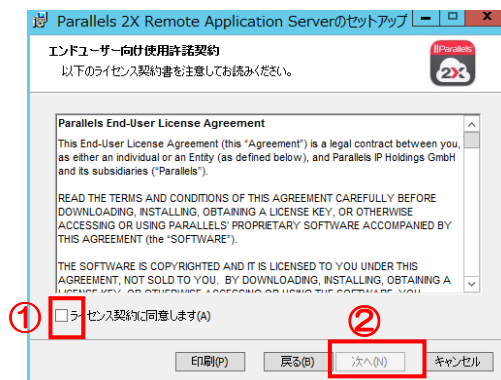
注意事項

インストールの準備を行う前に、リモートデスクトップサービスが稼動していることをご確認ください。また、管理者制限でログインしていることと、システム要件をご確認ください。

- ① 2X RAS のセットアップファイルをダブルクリックしてインストールを実行します。
- ② インストールを実行すると、初期画面が表示されます。『次へ』をクリックします。



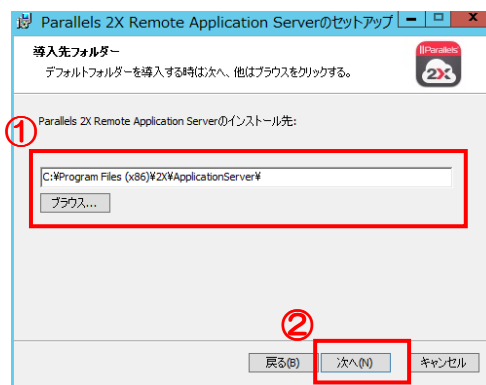
- ③ ライセンス契約にチェックを入れて『次へ』をクリックします。



- ④ カスタマーエクスペリエンスプログラムへ参加する場合は「はい、私はカスタマーエクスペリエンス向上のプログラムに参加して喜んでます。(推奨)」を選択し、『次へ』をクリックします。



- ⑤ 2X RAS のインストール先の変更を行う場合は『ブラウズ』から選択します。インストール先の確認ができましたら『次へ』をクリックします。



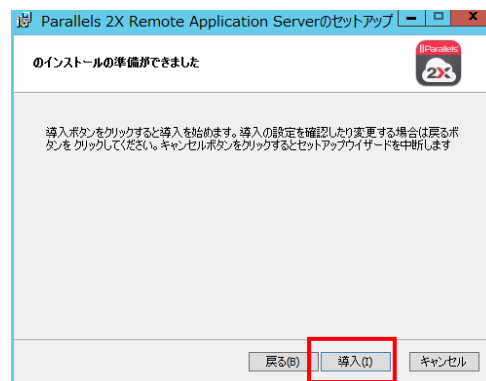
- ⑥ 希望するインストーションタイプを選択し、『次へ』をクリックします。



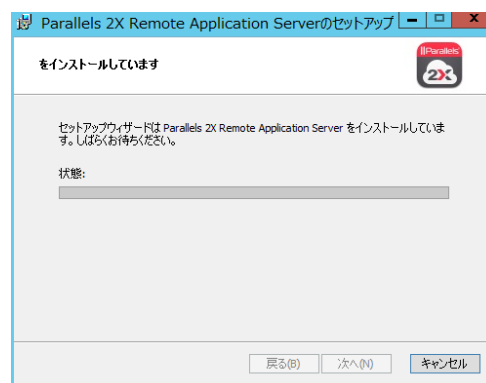
- ⑦ 「重要な通知」の画面が表示されます。表示されたメッセージ内容を確認できましたら、『次へ』をクリックします。



- ⑧ 「インストールの準備ができました」という画面が表示されます。『導入』をクリックします。



- ⑨ インストールを開始します。

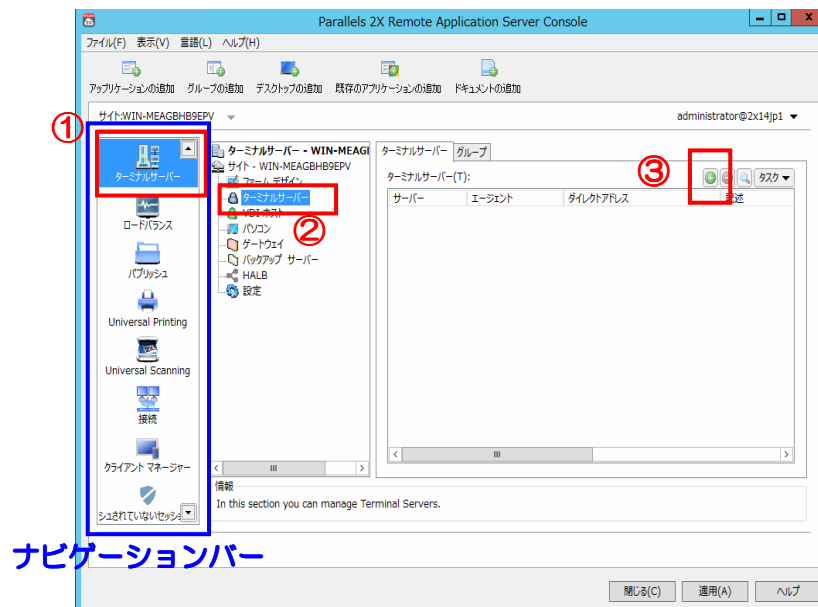


- ⑩ インストール完了後、「Parallels 2X Remote Application Server セットアップウィザードは完了しました」の画面が表示されます。「設定のユーティリティを立ち上げる。」のチェックを付けたまま『完了』をクリックします。

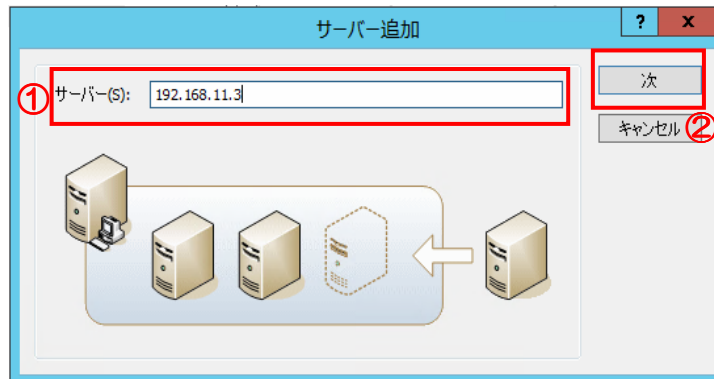


2-2. ターミナルサーバーの追加手順

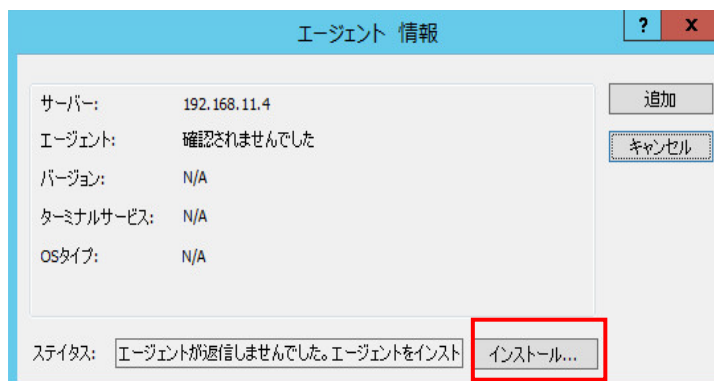
- ① ターミナルサーバーを追加する場合は 2XRAS 管理画面のナビゲーションバー内の「ターミナルサーバー」から右スペースに表示された「ターミナルサーバー」を選択し『+(プラス)ボタン』をクリックします。



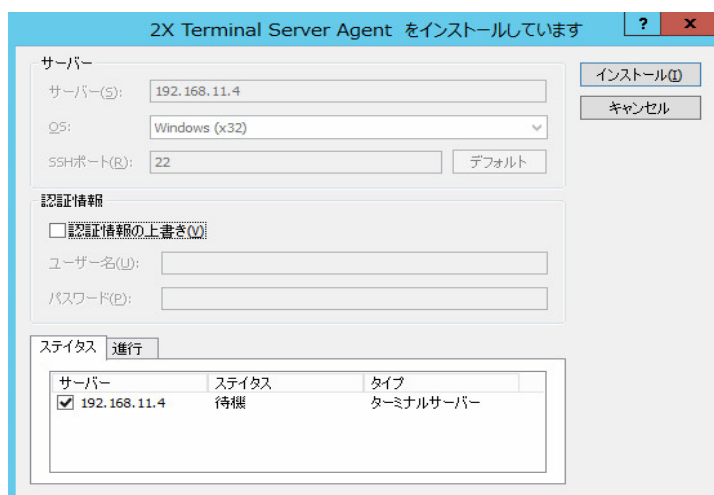
- ② 「サーバー追加」のポップアップが表示されます。サーバーの「IP アドレス」、または、「サーバー名」を入力し『次』をクリックします。



- ③ 「エージェント情報」のポップアップが表示されます。『インストール』をクリックしエージェントをインストールします。



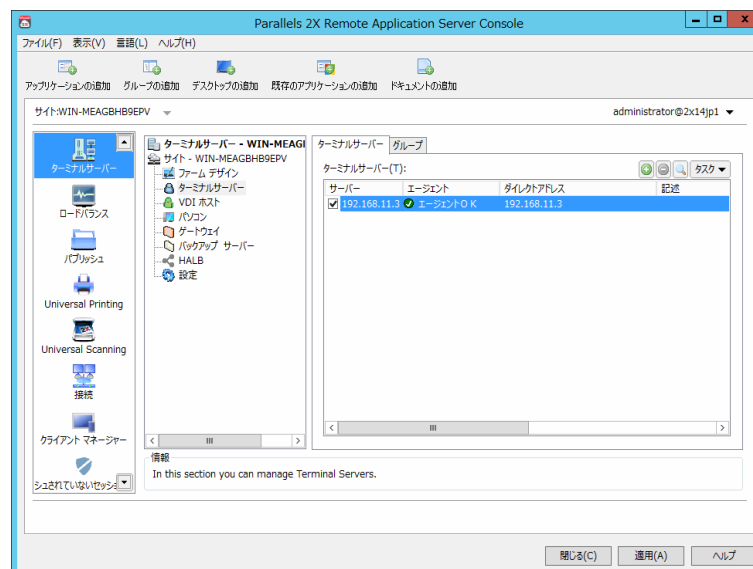
- ④ 「2X Terminal Server Agent をインストールしています」のポップアップが表示されインストールが開始されます。インストールが完了すると、『完了』ボタンが表示されるので『完了』をクリックします。



- ⑤ 「エージェント情報」のポップアップに戻りましたら『追加』をクリックします。



- ⑥ 以下の画面に戻ります。『適用』をクリックし、ターミナルサーバーの追加を完了します。



- ⑦ 更にサーバーを追加する場合は、ステップ「1-2.①」からステップ「1-2.⑤」までを繰り返し行います。

注意事項

2X コンソール中で設定の変更や追加などを設定した場合、『適用』をクリックするまで変更や追加が適用されません。変更や追加が終了しましたら必ず『適用』をクリックしてください。

ファームにサーバーの追加を行った場合、ロードバランスは自動的にファーム内サーバーのロードバランスを実行します。

2-3. サービス確認

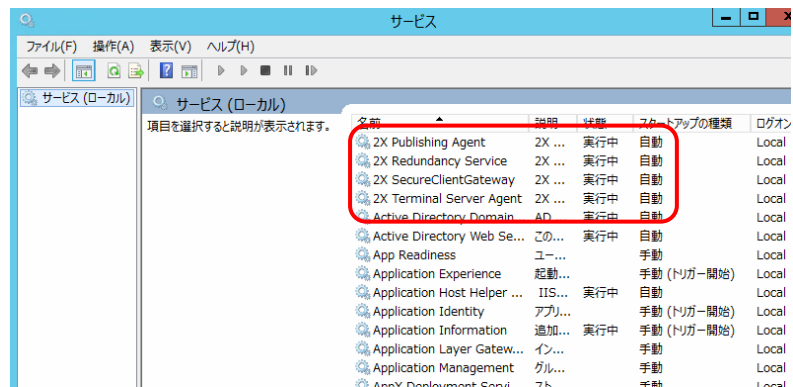
2X RAS サービスが実行されているかを以下の手順で確認します。

[スタート]→[プログラム]→[管理ツール]→[サービス]をクリックし、

- ・「2X Publishing Agent」
- ・「2X Redundancy Service」
- ・「2X SecureClientGateway」
- ・「2X Terminal Server Agent」

上記の 2X コンポーネントがインストールされているかを「サービス」画面の中で確認します。

インストールされていて「実行中」になっていない場合は右クリックで「開始」をクリックします。

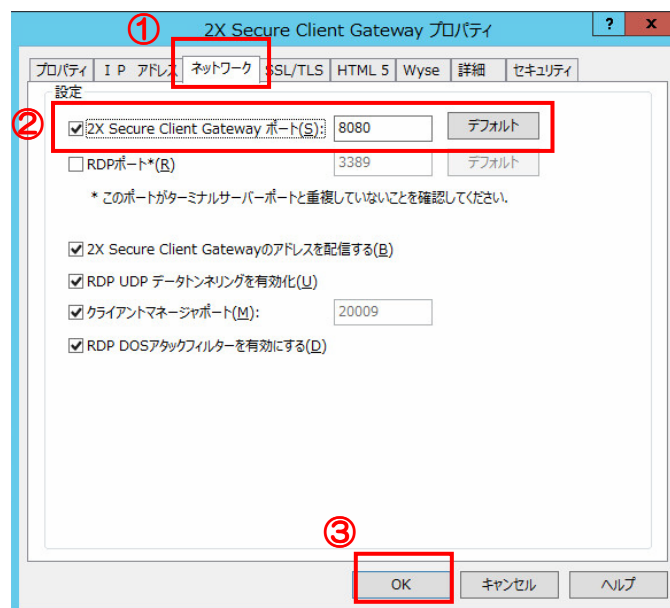


3. 2X Secure Client Gateway の設定

このページでは、2X Secure Client Gateway で使用するポートの設定をネットワークタブから行います。

環境によっては、デフォルトのポート番号(80 番)が使用できない場合があります。本書では、2X Secure Client Gateway ポートを 8080 番に設定しています。

- ① 2XRAS 管理画面のナビゲーションバーにある「ターミナルサーバー」を選択し、「ゲートウェイ」をクリックします。
- ② 「ゲートウェイ」タブに表示されている情報を右クリックし「プロパティ」をクリックすると「2X Secure Client Gateway プロパティ」のポップアップが表示されます。
- ③ 「ネットワーク」タブを開き、使用可能な 2X Secure Client Gateway ポート番号を入力し『OK』をクリックします。



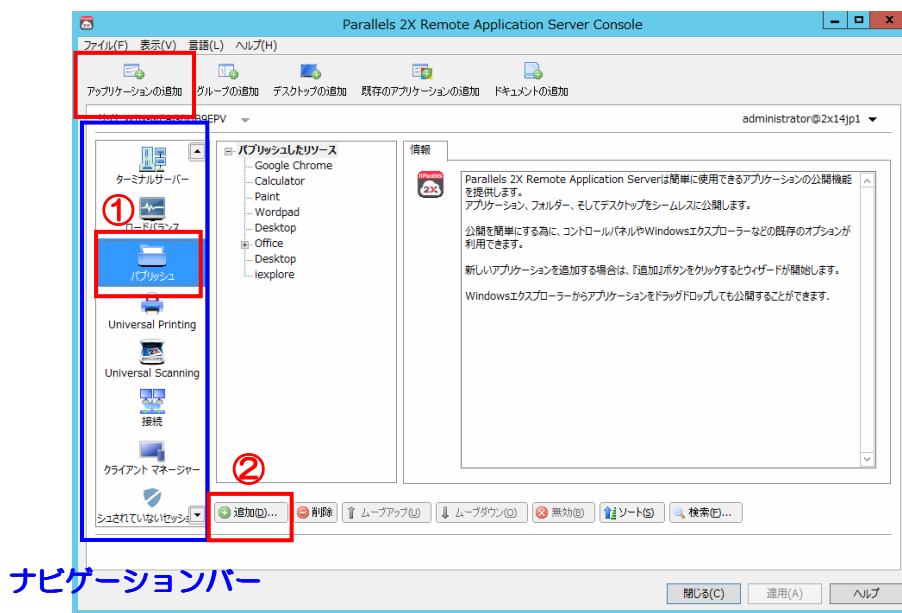
注意事項

2X Secure Client Gateway ポート：このポート（デフォルト TCP：80）は、2X のすべての情報をトンネルするために使用します。2X Secure Client Gateway ポートは、セキュアな接続（SSL）を同一のポート上でトンネルするためにも使用されます。

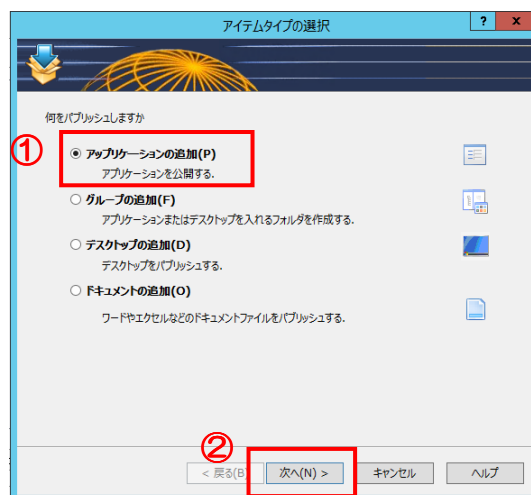
4. アプリケーションの公開設定

4-1. 2X RAS を使用し、アプリケーションを公開

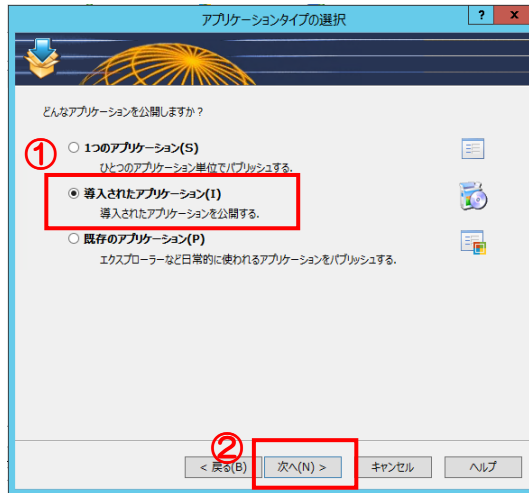
- ① 2X RAS 管理画面のナビゲーションバー内にある「パブリッシュ」を選択します。
- ② アプリケーションの公開を行うには、画面上部の『アプリケーションの追加』または、画面下部の『+追加』ボタンをクリックします。
- ③ 本書では「+追加」を選択し公開する方法を説明します。



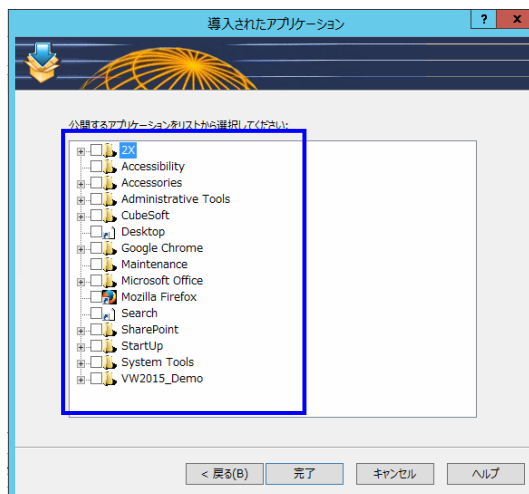
- ④ 「アイテムタイプの選択」のポップアップが表示されます。選択一覧から「アプリケーションの追加」を選択し、『次へ』をクリックします。



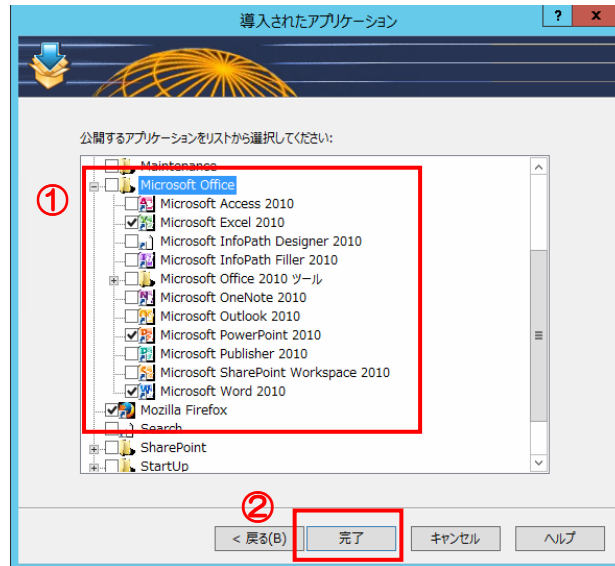
- ⑤ 「アプリケーションタイプの選択」のポップアップが表示されます。一覧から「導入されたアプリケーション」を選択し『次へ』をクリックします。



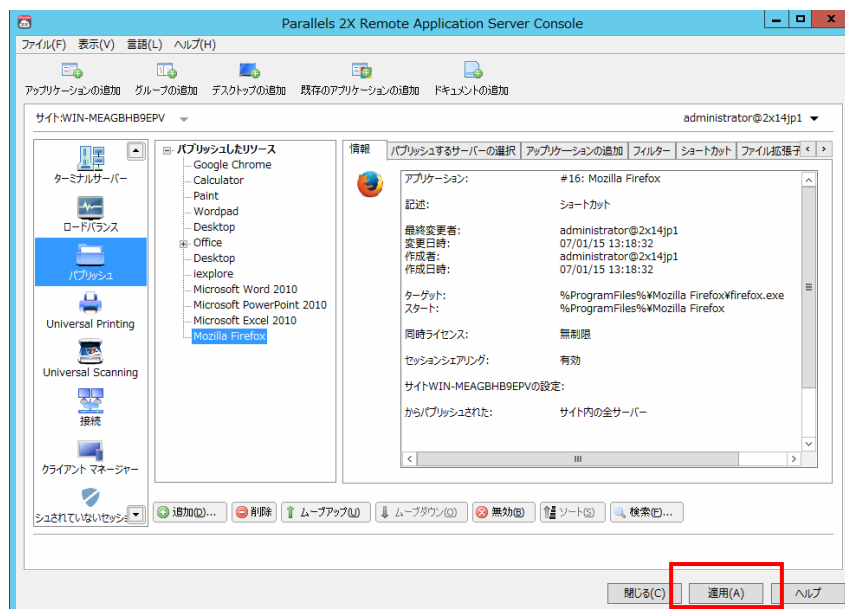
- ⑥ 導入されたアプリケーションの一覧が表示されます。



- ⑦ 導入されたアプリケーションの一覧から公開したいアプリケーションのチェックボックスにチェックをつけます。最後に『完了』ボタンをクリックします。

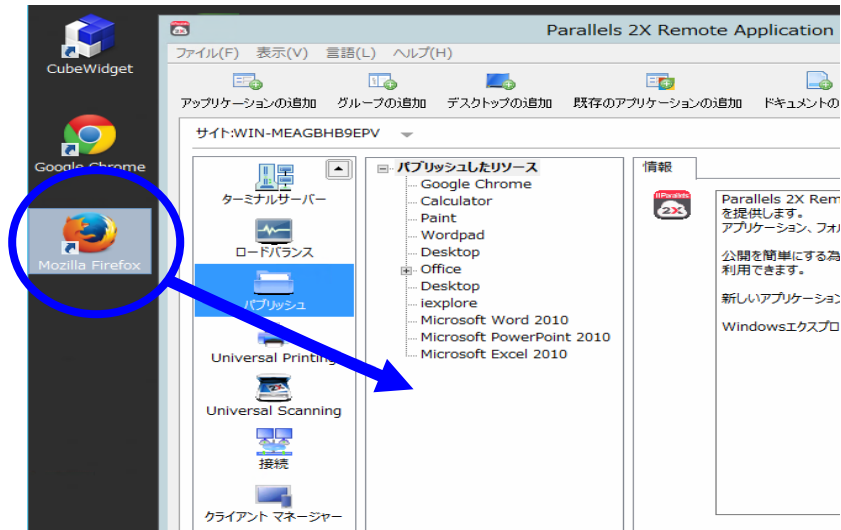


- ⑧ パブリッシュ画面に戻ります。『適用』をクリックすることでアプリケーションの公開が行われます。



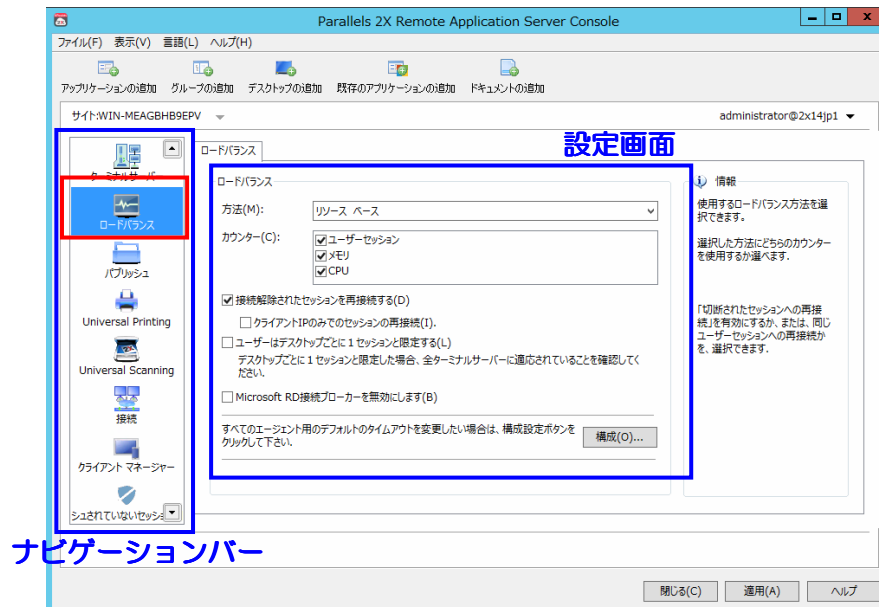
4-2. アプリケーション公開のヒント

デスクトップやスタートメニューにあるアプリケーションをドラッグアンドドロップする事によるアプリケーション公開も可能です。



5. ロードバランスの設定

2X ロードバランスを設定するには、2X 管理画面のナビゲーションバーの「ロードバランス」をクリックし、設定画面で設定を行います。



注意事項

ラウンドロビン方式: この方法では、2X ロードバランスは、サーバーのリソースに関係なく、2X RAS から決められた順番で利用可能なサーバーと接続します。

リソースベース方式: この方法では、2X ロードバランスは、ファームにおけるすべての2X RAS の負荷情報を検索し、指定した条件に基づいて、接続する2X RAS を決定します。三つの異なる条件が利用可能です。

ユーザーセッション: セッションの数が最も少ないサーバーに接続します。

メモリー: メモリーの使用率が最も少ないサーバーに接続します。

CPU: CPU 使用率が最も少ないサーバーに接続します。

複数の条件が設定されている場合、2X ロードバランスは該当条件の比率を計算し、最も比率の良いサーバーに接続します。

特別なことが無い限り、すべての条件を選択することを推奨します。

注意：負荷分散を適用するすべての 2X RAS にエージェントをインストールする必要があります。

接続解除されたセッションを再接続する：エージェントは、同一のユーザーが切断前のセッションへの再接続を可能にするにはこのオプションを選択します。

ユーザーはデスクトップごとに1セッションと限定する：このオプションを選択すると、アクティブセッションが1セッションに限定されるため、接続要求時に再接続の確認表示が表示される場合があります。同一のユーザーによってセッションを開始した際、既にそのユーザーがある 2X RAS に接続している場合は、そのユーザーは同一セッションに接続されます。

注：デスクトップ毎にユーザーを一つのセッションに制限するには、『各ユーザーを1セッションに制限します』の設定が、2X RAS サービスの構成設定ならびに接続ですべての 2X RAS 上で設定されていることが必要です。